

条例改正請求代表者説明（橋本升治会長）

平成23年第486回 6月臨時会
第486回益田市議会臨時会会議録より抜粋

ただいま御紹介いただきました益田市をよくする市民の会の橋本でございます。

以下、会の名称については、市民の会と略称させていただきます。

冒頭に市民の会の会則のさわりを申し上げまして、私たちの活動が何を目的にしているのかを御理解いただきたいと思います。

私たちは、会則第1条において、「市民各層の益田を思う心をついにし、現在から未来にわたり、明るい益田市をつくることを目指し、このまま住み続けたい、住んでよかったというまちづくりに努めることを目的とする」とうたいました。

当議会にも市民クラブという会派がありますが、私たち市民の会が言う市民とは、心から益田をよくしたい、益田の将来に希望を持ちたいという、一党一派に偏することのない多数派の益田市民を指しています。私たち市民の会の仕事は、そうした市民の声を市民にかかわって議会に、あるいは市の執行部に届けることです。

市会議員を20名に減らそうという運動は、その第一弾です。おかげさまで、わずか1カ月の間に、益田市の有権者の3分の1に近い多くの方々の賛同をいただくことができました。署名してくださった市民の皆さんには、この場をかりて心から御礼申し上げます。

さて、署名をいただいているときの市民の皆さんから感じたことは、議員の削減に賛成するよという方が圧倒的に多かったということでした。中には、20名どころか半数でもええんじゃないかというような御意見も多数あったことを御報告しておきます。

署名をいただいたとき、どうして20名なのかという質問もよく耳にしました。本来なら、この質問に対する答えを今ここで私たちのような市民団体がお答えしなくても済むことでした。というのも、議会がその答えを用意する機会があったからです。

議員の皆さん、昨年12月議会の議員定数調査特別委員会の最終日のことを思い出してください。最後に残った検討案は、26名案、24名案、22名案の3案でした。委員会を傍聴していた私は、当然のことながら、口角泡を飛ばして最後の議論が行われるものと期待していました。もしそれが行われれば、20名という数字こそなかったものの、なぜ26名なのか、なぜ24名なのか、なぜ22名なのか、それぞれの会派から理由を聞くことができたはずですが、それは、議会の考え方を市民の皆さんにはつきりお伝えできる機会になったはずですが、しかしながら、1時間の休憩の後、委員長が出された結論は最も多い26名で、極めて不明朗な手続と思われるプロセスで議長答申が行われました。

ここで、逆に議員の皆さんに質問をさせていただきます。26名案に賛成された議員は18名です。では、何を根拠に26名にされたのでしょうか。何を根拠に26名としたのでしょうか。当時行われていた国勢調査では、益田市の人口は5万人を割るのが必至と見られていました。そうなると、市議会の定員も、地方自治法の定めるところにより、自動的に26名になる。では、先手を打って上限の26名にしておこう。26名なら、それまでの定数28名から2名減るし、名分も立ちます、ということだったんじゃないでしょうか。もしそうなら、26名案にした益田市会議員としてのあなた方の意見、主張というのを主体性を感じることはできません。市民は皆さんそう思ってます。

ここで20名にした市民の会の根拠、大義を説明させていただきます。

それは、逆に26名案に賛成された議員の方々の理由を何う権利を私たち市民の会は持つこととなります。というのも、2つの対立した意見があって、相手方にその理由を説明せよと迫るのなら、説明を求められた側は説明を求めた相手に対しても同じことを求める権利があるんです。これは議会の公

正なあり方です。後ほど議員の方々による討論が予定されているやに聞きますが、その中で 26 名の提案理由についてじっくりお聞かせいただきたいと思います。

さて、私たちの仲間に金子さんという方がいらっしゃいます。私と同じ後期高齢者の一人ですが、自転車をこぎながら全署名の 1 割以上を集めた大変パワフルな方です。金子さんはどうしてこんなにも多くの署名を集めることができたのでしょうか。金子さんは、ひたすら「子や孫に莫大な借金を残したままでええんかね」と、対面した市民の一人一人にアピールし続けたんです。これが市民の共感を呼んだわけです。「益田市にはそんなに大きな借金があるんかね」と改めて驚かれた方々がほとんどでした。

現在、益田市の借金はおよそ 440 億円、市民 1 人当たりになると 80 万円です。一方、益田市内で上がる税収は 55 億円です。何と収入の 8 倍もの借金があるわけです。この話をするとき、議員の中には「足りないお金はお国から流れてくるんじゃないや心配ないよ」とうそぶく人がいるやに聞いています。言うところの交付金でしょうね。今まではそれで済みました。しかし、こんな状態はいつまでも続くとお思いでしょうか。

今国は借金だらけです。GDP（国内総生産）に占めるその国の借金の割合ってというのは 1 をはるかに超えています。これは世界でも断トツです。あの今問題になってるギリシャだとか、ポルトガルだとか、イタリアだとか、スペインだとか、そういうところをはるかに超してるんです。その額は、間もなく 700 兆円になろうとしています。これは、毎日インターネットで数字がぱっぱぱっぱ変わっていきます。利子があるからその分加算されるような、いわゆるデジタル処理されてるわけなんですけど、700 兆円を国民 1 人当たりになると 530 万円になります。加えて、東日本大震災が起これ、復興には 30 兆円とも 50 兆円とも言われるお金が必要になると言われています。財務省は、これ以上財政規律を緩めることはできない、一生懸命財布のひもを締めています。国債の発行にも慎重です。

交付金は減る方向にあるんだということを認識しなきゃいけないでしょうし、財務省が保障して発行できている益田市の地方債、これも今までのように起債が自由にいくというわけにはいかないと思います。ちょっと勉強して想像力を働かせれば、国もないそでは振れんのだということのはっきりわかります。益田市の財政に執行部と同じだけの責任を持つ市議会の皆さんなら、国のこうした窮状も十分御理解いただけるんじゃないかなと思うわけです。

議員報酬を含めた 1 人当たりの議会経費は 800 万円くらいと言われていています。議員定数を 20 名にすると、6 名減になります。約 5,000 万円の経費の節減になります。440 億円の借金から見れば、目薬の一滴にもなりません。既に 7 年前に、当市では財政非常事態宣言も行われたと聞いております。ということは、議員の皆さんも益田市の財政事情についてはよくよく御存じだということはこの財政非常事態宣言は物語っているわけです。それならば行動を起こしていただきたいんです。市民としては切に願っています。益田市の財政事情に精通しているはずの議員の方々からお手本を示していただきたいんです。

議員の皆さんは、益田市の現在と将来について、福原市長と同じだけの責任を負ってるんです。釈迦に説法ですが、地方自治の二元代表制というのはこういうことを指すんです。福原市長と市の執行部だけが財政赤字に責任を負ってるわけじゃありません。議員の皆さんも同じ量の責任を持つてるわけです。節約できるお金が年間 5,000 万円弱でありましても、議員数を減らして益田市の財政改革に協力すべきではないかと私たちは市民の会は考えます。

また、減らしたとしても、議会運営ができるはずですよ。20 名でできないとお考えでしょうか。現に、益田市と同じような規模の全国 18 もの自治体では、20 名以下の議員で立派に議会を運営しています。

しかし、議員数を決めるのはあなた方議員の皆さんです。あなた方がお決めになるわけです。これが現在の議会制度で決められていることなんです。当然のことですが、私たちもむやみやたらに減ら

せ、減らせ、15にせえ、13にせえというふうなことを言うわけにはいきません。あなた方との間で折り合いをつけなきゃいけません。いわゆる折り合いをつけないといけないわけです。議会の意向と私たちの主張は歩み寄る必要があります。そこで、私たちが考えたのは、益田市の財政事情に責任があることを議員の皆さんが自覚してるんだったら、6名ぐらいは減にしてもよろしいんじゃないでしょうかということ。この折り合いのつけ方が20名という数字になってるんです。

さきに私は、26名案の趣旨説明を聞く権利を得たと言いました。議員の皆さんからそのことを聞く権利を得たと言いました。実は、この問題に関連して、全国規模での大きな情勢の変化が生じていることは議員の皆さんは既に御存じのはずです。御存じですよ、皆さん。4月28日に改正自治法が成立しました。自治体の議員定数の上限が撤廃されることになりました。つまり8月以降、益田市の議員定数は当議会でも自由に決めることができるようになったんです。15名でもよし、逆に30名でもよし、50名はちょっとあれですけどね、というわけです。

大方の議員の皆さんが現行の26名にされた理由は、恐らく法定の上限を参考にされたものと推察いたします。しかし、これからの議会で再度議員定数問題を議題にのせる場合はそうはいきません。各会派は、提案する数字についてしっかりした理由を用意しないと、他会派からの支持は得られません。法定数の上限でお茶を濁しておこうなんていうあなた任せの態度はこれからは通用しません。

こうした環境の変化も考慮に入れた上で、あえて申し上げます。ぜひとも26名案を提案された理由をお聞かせください。それがあって初めて、20名案の根拠を示せと我々に迫る皆様方議員と公平な議論の場ができることとなります。公平な議論の場です。

次に、益田市は広いから多くの議員が必要だ——これはもう特別委員会でもしょっちゅうこういう発言が出ました。この考え方について、市民の会の反論を申し上げます。

1つは、広いということの定義です。確かに面積は、全国700以上ある市の中で広い方から見てトップテンに入ります。トップテンでわかりますよね。だからといって、人の住んでいない土地まで計算に入れる、これはちょっと乱暴じゃないんでしょうか。アメリカじゃないんですよ、中国じゃないんですよ、たったこれだけの益田ですから。

定数減を訴えて署名簿を選挙管理委員会に提出した日、市民の会は前田議長に申入書を提出しました。有権者の3分の1に迫ろうかという署名の重みをしっかり受けとめて、議会で20名案についてかんかんがくがくの議論をしてほしいという願いからです。その中で、広いことは理由にならないということもはっきり述べさせていただきました。最も遠い匹見に行くのに、市内から車で2時間程度ですね。これは匹見からいらっしゃってる方が証明していただけることだと思いますが。また、電話という通信手段もあります。議員の皆さんが市民の意見を聞く気になれば、いつでも聞くことはできるんです。

また、議員の皆さんに支払われている公務交通費、これが議員としての実動日数でもあるわけですが、その日数は1人平均で47.4日分だけありません。市民の会の議員報酬に対する解釈というのは、議員報酬は年間を通じての活動に対して支払われているのであるから、残りの300日もしっかり働いてもらわなければならないということです。この300日という膨大な時間を市民との対話に向けたら、幾らでも市民の意見を吸い上げることはできるんじゃないでしょうか。

要は、聞こうとする気持ちの問題だと思います。聞こうとする気持ちの問題です、あなた方の。議員の皆さんで地区担当を決めて、その地域の民意を丁寧聞くという方法もあります。そういう方法について議論なさったんでしょうか。定数減で市民の意見が聞けなくなるというのは大変乱暴な言い方です。言葉は余り適切でないかもしれませんが、私に言わせると、本当乱暴な言い方だと思います。議員としての責務を放棄してるんだという言い方にもとれます。

また、20名にすると匹見や美都に議員がいなくなると声高に主張される議員もいるやに聞いていま

す。果たしてそうでしょうか。現在匹見地区の有権者は1,300人です。投票率80%として1,040票です、これが有効投票数っていうことです。ところが、この匹見から現在2名の議員が選出されています。そのからくりは何でしょうか。その2名の方の合計得票数は2,341票です。匹見地区の投票者のほとんど2倍の数字を2人の議員の方は上げてらっしゃるわけです。この例は、議員の選出が地区や広さに関係なく行われているっていうことを物語っているんじゃないでしょうか。この人たちは全市を地盤にして選ばれてるという見方もできます。

次に、美都の例です。現在美都の有権者数は2,000名弱です。80%の投票率で1,600票です。この美都から2名の現職議員がいます。得票数は、合わせて1,973、美都地区の投票者数の数を400票近くこれも上回ってるんです。足りないんじゃないんです、上回ってるんです。やはり美都地区だけに頼らない選挙活動を行った結果だと読めます。

こうした現実があるのに、定数減の話になると、どうして地域を盾に理屈に合わない主張をされるのでしょうか。私はわかりません。

市民の会では、各地区に根強く残る「議員は地区の代表」という傾向を認めた上で、本来の議員のあり方というのを、益田市の将来に責任を持つオール益田市代表として議案を提案し、議論できる議員であるべきだということをごつけ加えさせていただきます。

議員は地区代表という考え方に関連して、こんな意見があることも紹介しておきましょう。というのは、地区の問題は各自治会でほとんど対応できてる、議員にお願いするケースはほとんどない、これは市の全域で聞ける意見です。私もかなりの自治会長さんとお話しさせていただきましたけど、本当にこういう意見は強いです。

議員数に関連しましてよく聞く議論ですが、議員は多ければ多いほど市民の声が反映できる、それは民主主義の本来のあり方だという議論です。議員数が極端に少なければそういうことも、それはやっぱり市民の声聞くのはなかなか難しいと思いますが、そこそこ益田市ぐらいの議会でしたら、18とか16とかでも大丈夫じゃないかと私ら思うんですが。

ここでちょっと皆さんイメージしていただきたいものがあります。蟠竜湖に係留されているレジャー用のボートです、2人乗りのボートです。このボートは左右2本のオールがついています。この2本が同じように水をかいてこそボートは前に進めます。もし片方のオールだけなら、ボートはそこをくるくるくる回るだけで前に進むことはありません。民主主義はこのボートに似ています。数だけを主張するのは、片方のオールだけでボートをこぐのに似ています。もう片方のオール、つまり議員の質がなおざりにされると、形だけをまねた民主主義、これはえせ民主主義だと思います。

市民の会は、「議会力は議員×議員の質」とチラシにも明記しましたが、自分たちの質を棚上げにして数だけを主張される議論は、益田市の一市民として到底受け入れることはできません。大半の市民もそのようにお考えになってることだと思います。

もう一つ、1万3,000人の署名を集めたというが、まだ3分の2以上の有権者が残ってるじゃないかい、この人たちは20名には賛成しないはずだよ——これも聞きました、実際。では、そういうお考えをお持ちの議員の方にお尋ねします。

あなた方は新聞やテレビの世論調査をどのように受けとめていらっしゃいますか、評価されますか。新聞なんかの世論調査の標本数は大体1,000人前後です。1,600人ぐらいに質問状を送りまして、返ってくるのは1,000人前後です。これで1億2,000万人の日本人の意識を探り、その時々世論の傾向を見ているわけです。これは、統計学的にも、ちょっと難しいことを言わせていただきますが、統計学的にも全世界で認められている手法なんです、やり方なんです。もし、署名された方々以外の市民は現状の26名に賛成のはずだと、22名じゃなくて26名だと、26名に賛成のはずだと主張される

のなら、私たちと同じように、あなた方の 26 名案に賛成される方の署名を実際に提示していただかないと公平ではないし、我田引水の乱暴な意見と言わざるを得ません。

議員数が 20 名になった場合、議会運営は本当に無理なのかどうか、しっかり議論していただきたいのです。20 名以下の議員数で立派に議会を運営している全国 18 の市の現状も研究してみてください。そのための臨時出費が必要なら、市民は喜んで出費に賛成することでしょう。

もう一度申し上げます。市民の会が市会議員 20 名案を提案する大義は、益田市の財政問題に今から手をつけるべきだということにあります。子や孫に莫大な借金を残すことを親として恥ずかしく思おうじゃないかということです。これについて、福原市長と同じ責任を持つ議員の皆さん、再度二元代表制の精神をよくかみしめていただいて、みずから範を示していただきたい、そう思います。

もちろん、これ以外にも財政改革を進める道はあります。それは十分承知しています。ではなぜ、市民の会は議員数 20 名案を真っ先に出したか。それは、非常事態宣言をするくらいに切迫している市の借金財政の解決に議員の皆さんがみずから積極的に取り組んでいる、この姿勢を市民に訴えることができるからです。借金財政の解決には市民の大きな力が必要になります。率先垂範して財政赤字に取り組んでいるんだから、市民や市の職員も協力してくださいよと、こういうことを議会からもお願いすることはできるわけです。

議員の中には、この議会を最後に勇退される方もいらっしゃるやに聞いています。せめてその方々は、会派に縛られることなく、御自分の意思で、20 名案は本当に賛成できないものか、やっぱり 26 名がいいのかということをよくお考えいただきたい。それが、長年お世話になった益田市議会と益田市民にお礼を込めた置き土産、何よりの置き土産になると私は信じています。

ふるさと益田市を愛するあなた方の熱い思いを今こそ行動で示していただくことを切に願って、市民の会の意見陳述とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。